

# 国語科における読解力の育成

本研究における読解力のとらえ方

国語科では、「読解力」を「話を聞いたり、文章を読み取ったりしたことを基にして、自分で考え、自分の言葉で表現すること。」ととらえ、読み取るだけでなく、きちんと自分の言葉で表現するまでの、一連の過程そのものを「読解力」と考えた。

指導のねらい

ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること

読む力を高めるためには、クリティカル・リーディングと言われるような、自分の知識や経験と関連付けて建設的に批判するような読みを充実させる。

イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること

テキストを読んで得られた知識について、実生活や行動と関連付けて書く力を高める。

ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること。

文学的文章だけでなく、幅広いジャンルの本に親しむこと。また、授業の中で、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実させる。

## 調査研究の手立てと実践事例

- 1 1年「人・もの・ころ」 - ものづくりの知恵 -
  - 読解、表現及び評価のツールとしての意味マップの活用
  - 自分の言葉でわかりやすく伝えること
  - 情報（本）を提供し、読書活動の活性化を図ること
- 2 1年「対話する心」 - 少年の日の思い出 -
  - 一つ一つの表現と作品全体との関わりを理解させるためのワークシートの活用
  - 訳者の違う二つの作品を提示し、表現の効果を確かめること
- 3 2年「古典に親しむ」 - 徒然草 -
  - 知識や経験に位置付け、自分の意見をもつことができるようなテキストの工夫
  - 意見作文を「交流する活動」を組織した、評価しながらの読み
- 4 3年「説明文を評価しながら読む」
  - 新しい博物学の時代 -
  - 疑いながら読むという姿勢をもたせる、アンケート、同テーマを扱った新聞の活用
  - 自分の考えを導き出し、表現するための型を与えること

## ☆成果 と ★課題

- ☆書かれている内容を、実感を伴って具体的に理解し、説明すること
- ★体験を言葉と結び付けて解釈を広げること
- ☆文章表現の仕方の違いについて、評価しながら読むこと
- ★人物描写、行動描写の意味するところの吟味・検討の仕方
- ☆知識や体験と関連付けた理解及び表現の仕方
- ★テキストの意見に対する信頼性、妥当性に対する評価の仕方
- ☆根拠を明確にもち自分の考えを表現すること
- ★筆者の論の進め方に対しての評価しながらの読み

# 国 語

## 1 はじめに

2003年に実施された、PISA調査の読解プロセスの3つの観点のうち、「書かれた情報から推論して意味を理解する『テキストの解釈』」、「書かれた情報を自らの知識や経験に位置付ける『熟考・評価』」が、我が国の生徒の苦手とする観点である。

こうした現状を踏まえ、昨年度、どのようにしたら児童生徒の読解力を育成する授業を行うことができるか、小学校国語科において検証を進めてきた。その際、「読解力」については、PISA調査において定義が示されているが、本調査研究では、「読解力」を「話を聞いたり、文章を読み取ったりしたことを基にして、自分で考え、自分の言葉で表現すること。」ととらえ、読み取るだけでなく、きちんと自分の言葉で表現するまでの、一連の過程そのものを読解力であると考え、調査研究を進めてきた。

今年度は、中学校国語科において、昨年度の検証結果を踏まえ、平成20年3月に公示された「新学習指導要領」の内容も念頭に置き、調査研究を進めていく。また、調査研究を進めるに当たっては、平成17年12月に文部科学省より出された「読解力向上に関する指導資料」を基にしながら検証を行うこととした。

## 2 調査研究の視点

### (1) 7つの改善の方向

本調査研究では、「読解力向上に関する指導資料」の「7つの改善の方向」をもとに、実際の国語の授業の中でどのように取り組んだらよいかを検証することとした。

#### 7つの改善の方向

指導のねらい
ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること
(ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成
(イ) 評価しながら読む能力の育成
(ウ) 課題に即応した読む能力の育成
イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること
(ア) テキストを利用して自分の考えを表現する力を高めること
(イ) 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成
ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること
(ア) 様々なテキストに対応した読む能力の育成
(イ) 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

特に、課題としてあげられる「テキストの解釈」、「熟考・評価」の観点に焦点を当て、以下のアの(ア)(イ)、イの(ア)、ウの(イ)にポイントをしぼり、授業実践の方策とその検証に努めていくことにした。

#### ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること

読む力を高めるためには、テキストを肯定的にとらえて理解するだけでなく、テキストの内容や筆者の意図などを解釈することが必要である。さらに、クリティカル・リーディングと言われ

るような、内容などを理解・評価したり、自分の知識や経験と関連付けて、建設的に批判するような読みを充実することが必要である。

(ア) 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成

目的に応じてテキストの意味や構成を理解したり、表現の細部が全体にどのような役割を果たしているのかなど、筆者の表現意図を解釈したりする力を育成する。

(イ) 評価しながら読む能力の育成

与えられたテキストについて、主張の信頼性や客観性、論理的な思考の確かさなど、様々な幅広い観点から評価しながら読む能力を育成する。

イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること

読解に当たって、単に読んで理解するだけでなく、テキストを利用して自分の考えを書くことが求められる。

(ア) テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

述べられている事柄を相互に関連付けて解釈したり、それらを総合して自分の考えや生活経験と結びつけて考えをまとめ、表現したりする能力を育成する。

ウ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること

(ア) 様々なテキストに対応した読む能力の育成

(2) 仮説の設定

今回の調査研究では、「目的に応じて理解し、解釈する能力」、「評価しながら読む能力」、「テキストを利用して自分の考えを表現する能力」、「様々なテキストに対応した読む能力」を育成するための仮説を設定し、授業を行うこととした。また、授業を実践するに当たり、アンケートを用いることで、授業前と授業後の生徒の変容をとらえ、読解力を育成する授業改善の在り方についても考察したいと考えた。

仮説1 自分の考えをもって読んだり、それを表現に結び付けたりすれば、「評価しながら読む力」を向上させることができるだろう。

仮説2 意味マップを使うことで、理解が深まり意欲的に表現活動に取り組めるであろう。

仮説3 本の情報を提供し、読書の機会を確保することで、読書活動を活性化できるであろう。

仮説4 主題に迫る上で、文章表現の仕方の違いに着目させることで、「評価しながら読む力」を身に付けることができるだろう。